

仮設住宅 研究プロジェクト

Research project of Temporary housing

研究プロジェクト案
プロジェクト提案者 後藤 寛尚



目的

東日本大震災で、突如大量に必要なになった仮設住宅。郡山市内にも、市外から避難する方が仮設住宅で生活している。しかし、仮設住宅の居住性は快適とは言い難く、阪神淡路大震災、中越地震など過去の災害時にも、その議論をされ続けてきた。

仮設住宅は、決して私たちに無縁なものではない。このプロジェクトでは、従来の仮設住宅の問題点、新しい仮設住宅の取り組みを調査し、より良い仮設住宅の形を考えていく。



研究期間

6 ヵ月



参加人数

5 人～



研究方法

図書館
大学教員・研究室への取材
各種官公庁への取材
仮設住宅建設業者への取材
被災地出身の学生への聞き込み
仮設住宅居住者への聞き込み



研究内容

従来の仮設住宅の問題点の調査
改善された仮設住宅の調査
仮設住宅の構法の研究
これからの仮設住宅の提案
仮設住宅コンペティションの実施 など



発表方法

WEB
北桜祭における展示
各種研究発表会



必要予算

書籍費（基本的に図書館を活用）
模型材料費
展示パネル制作費
交通費（現地調査を行う。自費負担？）